

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
12031	文化人類学	2単位 前期	1-4	講義	栗国恭子（非）

■テーマ 多様な人間への理解を深める。

■授業の概要

世界の様々な民族社会・文化を比較研究する学問が文化人類学（民族学）である。様々な地域や環境で生きる多くの民族文化から多様な「人間の在り方」を考えてみる。様々な「人間の在り方」に触れることで、それぞれの民族の文化・社会は独自性を持ちながらも孤立するものでもないことを確認する。他民族の文化と沖縄・日本に暮らす自身の文化とどのようにつながっているのかを理解する。19世紀中頃に誕生した学問・文化人類学の方法論や視点を学ぶ。〈民族〉、〈自然〉、〈技術〉、〈表現（表象）〉そして〈観光〉・〈開発〉をキーワードにアジア・日本・沖縄の民族文化に触れ、その中で世界をめぐる現代問題を考える。パワーポイント、映像資料などを用いた講義構成。

■到達目標

*人間の文化の多様性を知る。

*人間・民族社会を比較することで自身の文化の「在り様」を認識する。

*グローバル化のすすむ現代に、異文化社会との共生を考え・学び、実践につなげる。

人間の異文化の多様な豊かさを知ることによって、個人の芸術観や価値観の幅や奥行きを広げることができる。

■授業計画・方法

1. 文化人類学とはどのような学問か 人種と民族、方法論、マイノリティ（少数派）へのまなざし
2. 〈民族〉の概念変化と現代性… 〈民族〉概念のあり様、〈国家〉との関り、〈民族〉をめぐる現代の課題
3. 〈民族〉をめぐる現代の課題 民族紛争、独立運動など
4. 文化人類学説史… 文化人類学の基本理論（社会進化論、伝播論、機能主義、構造主義、象徴主義ほか）の流れを学ぶ。現代のグローバル化と多文化主義の問題と課題を考える
5. 生活の技術・経済の技術①
海に生きる人々。パプアニューギニアトロブリアント諸島のクラ交換。島嶼社会の平和・秩序観（1920年代機能主義を展開したマリノフスキーの理論の確認と文化相対主義を学ぶ）
6. 生活の技術・経済の技術② 海に生きる人々 スールー海の漂海民
①国籍とは？国境とは？これらの近代的概念が少数民族の国民化に影響した事例に触れることでその概念を考える。
②アジアのネットワーク（東南アジア、中国、東アジア日本・沖縄）：ナマコ・フカヒレ、海草がつなぐ社会。
7. 環境と文化… 照葉樹林文化 アジア・沖縄・日本の自然環境と暮らしの共通性を知る。
8. 世界の食文化… 「人は何を食べているか」現代の食文化と日本・アジア 現代問題・グローバル化・環境問題
9. 婚姻と文化… 世界の民族社会における婚姻制度（男と女と社会）の多様性を確認する。
10. 「もの」と人間社会… 金属の技術① 中国の少数民族と中央アジアのクバチの金属文化
55の少数民族の一つウイグル人の多く住むウイグル自治区中国・カシュガルと中央アジアのクバチを事例に金属の技術に触れる。またどのような視点から「文化を記録する」ことを考える。
11. 「文化表象」論…東アジア・日本・沖縄の文化表象論、場所の記憶
12. 文化と身体… 身体装飾 人生儀礼（沖縄のハジチ、アジアの入墨、管理される身体）
13. 民族文化と「伝統」… 観光人類学① 文化の語り・演じ表現する（される）文化 バリ島・沖縄「伝統創造」
14. 民族文化と観光… 観光人類学② 伝統文化と観光、チベット族と観光、「文化は誰のものか」
15. 環境と開発… 開発人類学① ブラジルの少数民族（カヤポ）、グローバル化の開発と少数民族の環境。
講義全体の解説・振り返り

定期試験は、15回目講義内で課題提出レポートを提出してもらい、定期試験とする。

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

*図書館（分類380及びDVD視聴覚資料）で世界の民族文化や「文化人類学」や「民族学」関係本の読書や、留学生との交流、様々なメディアの情報から世界各地や日本・沖縄に近いアジアの民族に関する知識を積極的に広げてほしい。講義のテーマについてコメントや意見を述べることなど、積極的な授業参加を求める。

■成績評価の方法・基準

□方法 平常点は授業への参加状況（20%）、コメントペーパーの提出状況（10%）と講義テーマに関するレポート提出（学期末試験）で総合的に判断する。

□基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

世界やアジア・日本・沖縄の民族文化について、講義で扱った〈民族〉、〈自然〉、〈技術〉、〈表現（表象）〉そして〈観光〉・〈開発〉のテーマに関連した内容について、自身の関心のあるタイトルで、資料を駆使してテーマを説明し自身の考えをまとめることができるか。

■教科書・参考文献（資料）等

□教科書 特定の指定教科書ではなく、講義用のレジュメ・資料を配布する。ビデオなどを使用し、重要な参考文献などは講義の中で紹介する。

□参考文献：

- ①『文化人類学』祖父江孝男篇 中公新書
- ②『文化人類学』松村圭一郎、人文書院、2011
- ③『よくわかる文化人類学』綾部恒雄・桑山敬己編 ミネルヴァ書房、2006
- ④『文化人類学キーワード』有斐閣双書 山下晋司編 有斐閣 1997
- ⑤『文化人類学最新術語 100』綾部恒雄編 弘文堂 2002、など。